



成長

教会標語

日々新たにされる私たち

(Ⅱコリント5: 17)

編集 < 総務 >
 発行人 西村 敬 憲
 発行所 岡山市東区
 西大寺中野 543-2
 日本同盟基督教団
 西大寺キリスト教会
 電話(086) 943 - 7552

「主われを愛す」はクリスマスカコロ!!?



牧師 赤江 弘之

クリスマスカコロと言え
 ば、「きよしこの夜」「諸人
 こぞりて」「ジングルベル」
 などです。

そこに「主われを愛す」
 が同じ部類に入るのではし
 うか。この讃美歌は世界中
 で最も慕われています。喜
 びにつけ、悲しみにつけ賛
 美します。

さて、クリスマスにふさ
 わしい聖句と言えば、ピリ
 ピ二章六〇八節でしょう。
 「キリストは、神の御姿で

あられるのに、神としての
 あり方を捨てられないとは
 考えず、ご自分を空しくし
 て、しもべの姿をとり、人
 間と同じようになられました
 た。人としての姿をもって
 現れ、自らを低くして、死
 にまで、それも十字架の死
 にまで従われました。」

「主われを愛す」の賛美は、
 このみことばを歌詞にして
 います。ですから、クリス
 マスカコロと言っているの
 です。この讃美歌は一九世
 紀半ばのニューヨークで、
 女流作家アンナ・バートレ
 ット・ウォーナーが、姉の
 スーザンの執筆した小説の
 中に、妹アンナが作詞しま
 した。その小説の中で、間
 もなく天に召されようとし
 ている子どもが歌う挿入歌
 として書かれたものです。
 この歌詞のもう一つの根拠
 は、ヨハネの手紙第一四章
 九節です。

城の別名鳥城が元の雅号で
 した。鳥城の背景には、彼
 が人生の目標とした良寛禪
 師の様に生きたいという思
 いが込められているようで
 す。良寛は岡山の玉島に居
 住していました。良寛の作
 品に、わが娘の将来を案じ
 て謡った句があります。
 かすみ立つ 長き春日に
 子供らと 手まりつきつ
 つこの日くらしつ

良寛は岡山から故郷越後
 に帰り、その貧しさの故に、
 明日子どもを手放さずにお
 れないので、子どもに何も
 してやれない自分を嘆きつ
 つ、心の中で泣きながら、
 わが子の将来に幸あれと祈
 りつつ手まりをつく、最後
 の日にこの句を詠みました。

一方、雨情の「シャボン
 玉」の歌詞は、シャボン玉
 が飛んでいく様子を通じて、
 人生の美しさと儚さと悲し
 さを象徴的に表現していま
 す。雨情は、「シャボン玉

飛んだ屋根まで飛んだ屋根
 まで飛んでこわれて消えた」
 というフレーズを使い、生
 まれてすぐに亡くなった子
 どもたちへの鎮魂歌として
 いるのでしょうか。ちなみに、

野口雨情は八歳の長女と二
 歳の四女をなくしています。
 このあたりの背景に、「主
 われを愛す」との共通の情
 感が読み取れます。「主わ
 れを愛す」の作詞者ウォー
 ナー女子も、死にゆく子へ
 の励ましのために作ったの
 ですから。

「シャボン玉」の作曲は
 有名な中山晋平です。この
 二つの曲は、賛美歌を底流
 とする大正童謡運動の盛ん
 な時期につくられました。
 「主われを愛す」の生まれ
 変わりであると言えるくら
 い類似しています。中山晋
 平は、書生時代に英語学校
 に通っていたのですが、そ
 こで宣教師から「ジーザス
 ラブズミー」を英語讃美
 歌を習ったことは十分考え
 られます。

昭和十一年「シャボン玉」
 の二節が雨情によって追加
 されました。
 シャボン玉、 飛んだ。
 屋根より高く。 ふうわ
 り ふわり、 つづいて飛
 んだ。

シャボン玉、 いいな。
 お空に上がる。あがつて
 行って、帰って来ない。

※ 次ページへ

救いの証し



住吉良樹

私は一〇代の頃母について行き日蓮様の檀家方の集まりに時々同行したことがありました。基本的には神仏というものについては無関心だったと思います。二〇〇六〇代もほぼ同じでどの宗教にも興味を持つことはありませんでした。

六四歳で今の妻と巡り合うことがあり、大阪東三国にある妻の弟さんが牧師をされている教会へ妻と娘の送り迎えのために礼拝になんとなく参加していました。そのようなことを繰り返しているうちに教会で歌われている讃美歌の中でいくつかの曲が大変好きになりそれらの曲を口ずさむこともありました。そんな時、普段の仕事の中で大きなミスをお犯すことが有り作業をしていた設備には支障はなかったのですが、周辺のお店を停電させることになり大

変ご迷惑をおかけする事態になりました。通常ならば損害賠償になる事案だったのですが先方のお店の方も問題にされずスムーズに事を終えることが出来ました。この時はさすがに神様にお祈りをしました。

よくよく考えたと過去にもたくさん助けられたことがあったように思われます。一例ですが、企業に勤めている時期に高圧電気設備に感電した時は右手からお尻に電気が流れて助かりました。また、大きな電気設備を壊してしまつたことが有り、完全に減給又は部門変更だつたと思うのですが何のお咎めも無く事が済んでいます。また、体調の面でも助けられています。ごく最近のことですが、尿管結石という病気になつて苦しくて救急車で搬送される自体になつたのですが、

結果的には一日だけの手当てで入院もせず収まっています。

そのほかにもいろいろな場面で私は守られてきたように思えます。その当時は全く宗教というものには無関心でしたので私の後ろには自分をいつも助けてくれる何かがあるのではと思つていました。教会への礼拝に毎週参加できるように家族でいろいろ検討を繰り返して行きました。大阪の東三国の教会へは往復が大変なので岡山で礼拝ができる様に妻と娘が一生懸命探してくれました。

岡山では数か所の教会へ礼拝に参加させてもらいましたが、そのほとんどで礼拝に参加されている方から声をかけられることもなく自分たちだけの礼拝で終わっていました。

最終的に西大寺キリスト教会への礼拝に参加させて頂くようになり、赤江先生とお知り合いになり何回かご挨拶のみで終わっていました。赤江先生、西村先生のお話を聞かされた時に自分の中に何かをしなければい

けないような気持ちで表れて私のほうから赤江先生に『洗礼を受けさせてください』と進言し気持ちよく受け入れて頂きました。

洗礼の準備段階として礼拝の大切さ、教会とはどういうものか等たくさんのお話を教わりました。この間妻との会話、教会での説教を通して私を守ってくださいつていたのは、天と地を造られた全能の神であつたことを感じられるようになり今まで自分を助けてくれていたのは自分の中にいる聖霊様ではないかと教えられました。また、学びの中で自分の罪に気づき、罪の赦しを与えてくださるイエス・キリストの救いをじられるようになってきました。

そんな準備段階の中で赤江先生と過去の出来事に同じようなことがあつたお話を聞きすぐく親近感を覚えることがありました。先生の父なる神に対する信仰心を体験談を交えてお聞きするうちにどんどん気持ち前向きになつて、以前には考えられなかつた一人では礼拝に向く自分がある。

※

ふうわり ふわり、シャボン玉、飛んだ。
「帰って来ない」シャボン玉、どこに行つたのかなあ
きつとどこかにいるんだよ、と思わせるような歌詞です。「主われを愛す」は、その答えを二節と三節で歌っています。さすがに福音です。罪あるものの罪を赦すために来てくださった、イエス・キリストの天国に招く良きおとずれのクリスマスカポルです。
2. わが罪のため 栄えを捨てて、天よりくだり 十字架につけり。
3. みくにの門を ひらきてわれを 招きたまへり
いさみて昇らん
わが主イエス、わが主イエス、わが主イエス、われを愛す。

※ 次ページへ

「キリスト教会2000年」 主日成人科に参加して

佐中久美子

私たちは使徒信条で「聖なる公同の教会・・・を信ず。」と告白します。「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身を捧げられた」(エペソ五・二五)その教会には、ペンテコステから今日に至るまで、二千年の歴史があります。丸山忠孝さんはそれを百年ごとに区切って教会の姿を捉え、それをさらに分かりやすく西村先生が解説してくださいました。

例えて言うなら、「ソロモン以後、北のイスラエル王国と南のユダ王国に分かれた」という旧約の事例が、元を正せばヤコブの家庭の偏愛や、士師記でのエフラムとユダのリーダーシップ争いなどずっと繋がっているのと同じで、「原因があるから結果がある」「撒いた種を刈り取る」のですね。地上の教会の歴史も同じで、「自分の目に正しいと思うことを行った」結果が三十年戦争のように悲惨なこともしばしば。それでも神様は決して教会を見放さず、「いたんだ葦を折ることなく、くすぶる燈心を消すこともない」「全てのことを働かせて益としてくださる」主に感謝です。「大きな流れの中での自分の立ち位置」を学ぶことで、知識が整理され、求道者にも説明しやすくなったと思います。一人に一冊自国語

の聖書があるのも、当たり前ではないのですね！

最後に、教会史を学び終えての成人科への個人的なリクエストその一。私は他教会から転入会しましたが、「恩寵」誌を読む度に感動

します。潤滑な世代交代のためにも、「恩寵」誌等をテキストにして西大寺教会の歴史と兄弟姉妹の熱い祈りを成人科で取り上げていただけないでしょうか。寄稿されている現在活躍中の兄弟姉妹のお話も挟んでいただけたらうれしいです！

その二。「女性」について聖書はどのように教えているか学びたいです。教会が主の花嫁と言われるように、創造主が人を男と女に造られたのには深い意味があると思います。歴史の中ではどのように捉えられてきたのか、女子教育とキリスト教との関係等について正しい知識をもって、家族関係や職場の人間関係に悩む方々と接したいと願っています。

成人科を準備してくださいる先生方、学ぶ方々、西大寺教会の上に主の豊かな祝福がありますように。

※

自分でもどうしたんだろうと思えるくらい前向きに礼拝へ参加している。これもイエス様の十字架と復活による救いを受け入れた結果と思えて仕方がない。

赤江先生の体調が少々気になります。お祈りさせて頂いています。礼拝に参加させて頂いてすぐに児玉先生ともお知り合いになり大変懇意にして頂き感謝しています。児玉先生の病床伝道師としての半生も聞き素晴らしい方だと思います。無農薬の有機栽培に力を入れておられ、畑で出来た無農薬野菜を教会の皆さんに奉仕される。児玉先生は最近大病にかかられましたが大きなダメージもなく回復されたように聞いています。その後、鎖骨を骨折されるケガもされたようですがこちらも無事回復されているようです。奥様も西大寺教会外にもたくさんのご奉仕をされたようにも聞いています。毎月の家庭礼拝、愛あいの立ち上げ等率先して動かれています。人と接することが大好きな方。私は今回お知り合いになつて頂いた皆さんの皆様は私の人生の中で最も近くに

※ 次ページへ

『三つのテーマで読む聖書キリスト・神の国・契約』の学び

原 美 穂

私をこんなにも愛してくださる神様を知りたい、もっと深く知りたい、と祈っていつも成人科に参加しています。

今回はキリストの栄光教会の川端光生先生のテキストが用いられました。三宅長老が分かりやすい丁寧な解説によって学びをリードしてくださり、新しく気づきが与えられ、毎回とても楽しめました。

「契約・神の国・キリスト」この三つのテーマで学ぶことの意義として○聖書全体の流れが立体的に理解できること○神様の約束を確信に満ちて待ち望めること○神様のご計画の中で自分はどうな使命を与えられているか、何をなすべきかが見えてくること、などがありました。特に聖書の奥義を人間の視点ではなく、神様の視点で学び知ること

教えられました。

それぞれのテーマについては○契約ー聖書は、創造主が被造物と結ばれた契約の書であり、神の国の計画はすべて契約によって歴史的に展開し、成就する。

○神の国ーキリストは契約に基づいて神の国の王として来られ、すべての契約を成就され、再臨によって完成される。聖書は神の国の始まり、崩壊、回復を語る歴史の書であり、神の国とサタンの国の戦いの記録であり、神の国の勝利を宣言する書である。○キリストーキリストは聖書の最大のテーマである。天地万物はキリストによって創造され、キリストを目的として存在している。聖書はキリストに始まり、キリストに終わる。歴史の最終ゴールはキリストの栄光である、ということ学びました。

心に残ったことは、祝福の契約であるアブラハム契約は、永遠に不変であるということ。また、神の国は「義と平和と聖霊による喜び」(ローマ一四・一七)であり、イスラエルに接ぎ木された私たちも、信仰によるアブラハムの子孫であり、神の国の祝福を人々に広げ祝福の基となっていくという役割があること、主に祝福され祝福の基となるために私たちに求められることは、ただ主への信頼である、ということ。す。

学びを通して、すべてのものの上におられ、すべてのものを貫く神様のご真実を思いました。イエス様が臨在される所、イエス様がご支配されることである神の国の祝福と喜びを思いました。主に聞き従い、神の国の完成を待ち望んで生きたいながら、これからもみことばの学びを続けていきたいです。この学びを与えてくださった神様に感謝します。御国が来ますように。

※

感じられる方々です。私はこの教会にお世話になつて本当に素晴らしい方々とお会いできています。私の人生もそんなに長くはないと思いますが、この先大切な時間を教会の皆様と共に過ごせる

ようにお祈りしたいと思えます。この証しを通して、同じような境遇の人々が神の存在を感じて信仰の力を知って頂ければと思う次第です。

(24・9・22 受洗
ヨシユア会)

成長感謝祝福式



2024年11月10日(日)